

シン破天荒

山崎編



令和7年度より

創刊

第7号

この「苦い」経験は、決して悪いものではないのですが、経験者である私たちは、ついこの「苦さ」を経験しなくていいように、前もって「回避」する道を用意したり、耳の痛い「忠告」を繰り返したりしてしまいます。

できるならば、そういった「苦言」を自分のためだと捉えることができれば、自分の知らない世界であっても、自分の進路の可能性を探る一助になるのではと思います。

保護者にも見せてくださいね

体育大会も終わりました
いいよいよ自分の進路と真剣に
向き合つていきませんか

八十回生の二学期も一ヶ月があつという間に過ぎました。先週の体育大会では運動の得手不得手に關係なく、行事を十分に満喫しましたが、結果や成果は然ることながら、一番大切なことが自分を出し切る「取り組み」であることを、今回もこの先も、自分の行動の原点に持つてもらえることを願います。

さて、山崎高校生として皆さんに課されることば「時の流れ」と同じように、次から次へと押し寄せています。

楽しい人生は

違うよ

職員室の
とあるコーナーより

十月の予定

岡山大学
訪問について

| | |
|----------------|-------------|
| 二　日（木） | 教育相談 |
| 十一日（土） | 類型説明会 |
| 十三日（月） | スポーツの日（祝日） |
| 十四日（火）～十七日（金） | 中間考査 |
| 十七日（金） | いじめアンケート |
| 十八日（土） | 氷ノ山登山（教育類型） |
| 十九日（日） | 氷ノ山登山（予備日） |
| 二十四日（金） | 教育相談 |
| | 漢字検定 |
| 二十四日（金）～三十日（木） | 図書館イベント |

十一月の予定

遊びの機会を
増やしましょう

ということで、体育大会も終わったので、自主的に勉強する機会と場を設けてみようと思います。

できれば、毎週金曜日の放課後に一学年フロアのどこかの教室を会場にしようと思います。

例えば、バス待ちの時間であったり、部活動の急な休みの時間などを利用して、自身の主体的な学習に取り組んでみませんか。

「させられる勉強」は持続性がありません。この

先、皆さんが大切にしないといけないのは、「小さいことを積み重ねる、最初の一歩を出す勇気を育てる」ことです。

様子を見て、教材も用意していこうと思います。

八十回生のみんなで「自らの進路を切り拓く空間」

できる限り早く、スタートの案内をしたいと思います。いましばらく待ってください。

「不要」と捉えたりしがちですが、「十六歳」のいまの皆さんには気付かない、視界から避けがちな景色が、実は将来の「後悔」というブームランで返ってきます。私たちも経験しています。

一日（土）　ベネッセ総合学力テスト
進路マップ

三　日（月）　文化の日

四　日（火）～十日　オープンスクール

七　日（金）　教育相談

十二日（水）　芸術鑑賞会（山崎文化会館）
教育相談

十四日（金）　ストーブ設置　教育相談

二十一日（金）　勤労感謝の日　もみじ祭り
振替休日

二十二日（土）　勤労感謝の駅③

二十三日（日）　ストーブ使用開始

二十四日（月）　教育相談

二十五日（火）　教育相談

二十八日（金）　教育相談

雨のため順延を余儀なくされた体育大会でしたが、九月二十六日金曜日、やや曇天の中ではありましたが、令和七年度山崎高等学校体育大会が実施されました。

体育大会

大縄跳び
第三位 二組



クラス総合
第二位 四組



女子四×一〇〇リレー
第一位 四組



リレーの写真でなくごめんなさい・・・。

うまくテンションを上げながら上級生の流れに乗りながら八十回生もまた上手に盛り上がることができたのではないでしようか。



男子一〇〇m
第一位 四組 辨吹 陽希



女子一〇〇m
第一位 三組 栗林 夏帆
第三位 三組 前田 千湖



良い体育大会であったと思います。
代休を利用してしっかりと切り替えて、一生懸命やった先に得た達成感を、自分を磨くために生かしていきましょう。



二学期が始まって早々、大変残念な、大変申し訳ない事案が発生しています。

登校に使用している一年生の自転車数台に、いたずらされたと思われる形跡が見られました。

事案の確認場所は山崎のバス停留所であったり、本校自転車置き場であったりと様々ですが、共有する生活空間でこのようなことが起こり、とても残念です。

再発防止策の一つとして、一学年の自転車置き場を他学年と同じ送迎場そばの空間に変更して、私達の目の届くスペースをまずは圧縮します。

それにより、外部の人いたずらである可能性を少しでも除外されるように対応したいと思います。

ともに学ぶ仲間を疑つたりすることがないような「学びの空間」を用意することが、私達がやるべき一番大切な仕事なのですが、いまそのことで皆さんを不安に貶めていることを申し訳なく思います。

いましばらくの間、見通しの良い場所に駐輪して自転車も含めて自分の身も安全で安心を確保できるよう、協力をお願いします。

残念な話

この一字 十月編

世界陸上2025より

一一〇mH 第五位 村竹ラシンド選手

(昨年のパリ五輪に続き世界の五位入賞も)

でしか取りようがないのです。

今を去ること三十四年前に東京で、十八年前には大阪で、世界陸上競技選手権大会が開催されました。

過去二回は、日本人の活躍というよりも、世界の有名選手の活躍に触れるといった大会でした。

大阪大会では、部員と観戦に訪れました。卒業生

は、男子一〇〇m決勝で優勝した選手のそばで競技

役員をしていたのですが、日本人選手がどうこうといふ話が話題になるようなことはなかなか・・・。

それから十八年。今回の大会では、陸上競技関係者のみなならず、皆さんの中にも多くの感動を得た人も少なからずいたのではないかですか。

学年通信という誌面で取り上げるのも何ですが、

幾人かの選手の発言を紹介します。

成長過程にある、それも伸びしろがたくさんある皆さんに、何かが伝わればと思います。

自分の行動には、今まで以上に責任が求められることが増えてきましたね。

一方で、皆さんの目から見て「大人」の行動を、少し崩した、崩れたものと捉えて、自分の行動や姿に、悪く言えば目を引こうとする様子も多くなっています。

一対一で話をすれば、「大人」になっている様子もうかがえます。だからこそ、「今」が自分を

さて皆さん。今の自分を越えていくことって格好良いって思いませんか。

三〇〇〇m障害 第八位 三浦龍司選手

(最後の直線で他選手からの妨害行為?)

悔しい気持ちはある。けど、これがサンショーンのかな。これが醍醐味であり、難しさでもあると思う。

長距離種目はオープンレーンで、接触のリスクはどうしてもあります。だからこそ、「今」が自分を

カでもある。

てるチャンスでもあり、機会を逃す場面もあると思います。

いずれにしても、自分に対する「責任」は、自分

とした時には、スタッフと抱き合いながら悔し涙を流す姿の映像も良く流されていましたが。

『育』

| | |
|------|-----|
| 入学時 | 『縁』 |
| 五 月 | 『探』 |
| 六 月 | 『声』 |
| 七 月 | 『触』 |
| 一学期末 | 『律』 |
| 二学期始 | 『笑』 |
| 十 月 | 『育』 |